

近世人物誌

やまご新聞附録第四

徳川溶姫君
 溶姫君徳川十代の將軍大恭院殿の息女
 女ふて加洲の太守前田濟泰御不嫁まあり
 西方幕府世盛の頃の歴代徳威のあり
 全國の諸侯國未様の別々自ら臣下の
 如くなく將軍家の息女ありて諸州
 太守の許へ嫁ありて一國の守殿と唱へ
 てま我柔帝の東方の比北まとも殿と
 字のふれ勢ある習ありて此加洲の本宮
 泰御申す同家歴代の中三利常閉
 必來の明君にて座座一は時の頼者の
 姫ありとも女嫁て大後へ先
 賢の教当代の習ふる妻少く夫勝
 る威勢を保つ謂きて世言の習言典
 庭を鷹狩り黄昏時歸りたすひて
 中庭より録女と高ふ呼ひて姫を
 忙し出のひけり不御小縁端の足掛く
 糸草鞋解めと仰られけり此時姫君若
 此事と括めひて打服をなれをあら離
 別する苦からずとのいふや然ま
 姫もこそ尋常の女性なきまら
 厭ひぬる色も承り侍るまらめひて
 疾くも庭木立の古草鞋解参りられ
 福も深の其心探も感りてまら
 市話の浅からん膠漆の物大汁く
 男女多の御子生せられ姫の御目の間
 側室を御直めはけりて御の御振舞
 姫の御心探りての御美事つこぞ
 文字三味樓主人題す



發行所
 東京 京橋區
 尾張町貳丁目壹番地
 如東と新聞社
 時主 奥隅故二
 編輯人 中泉政太郎

